

大阪梅田教会報



感謝の旅

赤波江 謙一神父

2月11日はルルドの聖母の祝日です。ルルドと聞くと、1983年に初めて巡礼で訪れたルルドでの出来事を必ず思い出します。その巡礼団には一組の年配のご夫妻が参加しておられました。ご主人はその巡礼の数年前に交通事故に遭い、頭部に大怪我を負われたそうなのですが、幸いに、九死に一生を得たという方で、その怪我の治癒が、奥様が注いでくださったルルドの水のおかげでだということをご主人から信じておられました。やっと歩けるようになったときに、自分を癒やしてくださったルルドのマリア様に感謝を申し上げたいという一途な心でその巡礼に参加されたのです。

ローマ巡礼を終えてやっとルルドにたどり着いたのですが、いろいろな手違いがあって、私たちの巡礼団がルルドのお水に沐浴をした夕方には、そのご夫妻は巡礼団に同行できず、翌日のルルド出発の日の朝、わずかな時間を見つけて、遂に念願の沐浴をすることができました。私は前日に済ませていたので、そのときは沐浴場に彼を連れて行き、彼が終わって出てくるのを待っていました。若干お体が不自由だったので他の人より少し時間がかかったのですが、やっと沐浴場から出て来ると、不自由な足を引きずりながら走り寄って、まるでお風呂から上がったばかりのような上気した面持ちで興奮しながら叫ぶように言いました。

“ありがとうございました！ ありがとうございました！ もう、こんなに嬉しいことはありません！ ほんとうにありがとうございました！”

彼は泣いてはいなかったのですが、本当に心から喜んでその姿を見て、「そんなに嬉しいですか、良かったですね」と言いながら私がもらい泣きをしてしまったくらいです。その後のことでした。奥様が、実は、と言って話してくださったことは更なる驚きであり感動でした。

その前の日の夕方、時間切れで沐浴ができないと分かったとき、ご主人を連れて、沐浴場の外にある給水場に行き、“ここで我慢しましょうね”と言い、感謝の祈りを捧げながら、癒やしていただいた頭部に水をかけた後に、ご主人がポツリとひと言おっしゃったそうです。“足元から白い鳩が天



に向かって飛んで行った”と。“私には何も見えなかったんですけど”と奥様はほかにこしながらおっしゃたのです。私はそれを聞いて、ええっと思いつつながら、ああ、この人にならそういうことは起きるだろう。神はこの人の心からの感謝という信仰をそんな形で受け入れてくださったのだと確信しました。重い皮膚病を癒やしていただいた10人の中で、1人のサマリア人だけがイエス様のところに戻ってきて感謝したときに言われた、“あなたの信仰があなたを救った”(ルカ17・11～19)というイエス様の言葉を思い出しました。信仰とは感謝です！ 私が見て聞いて来たルルドの奇跡の話です。

(梅田ブロック協力司祭：聖パウロ修道会)